

「持続可能で強靱な観光国際年」セミナー
2026年9月25日（於：東京）

「持続可能で強靱な観光国際年2027」に向けて

国際観光部国際関係室長荒木愛美子

「持続可能で強靱な観光国際年2027」

- ・ 国連総会決議（2024年）において、
2027年を「持続可能で強靱な観光国際年」
とすることが宣言

2026年－準備期間

- ・ オープニングセレモニー(11/27)
- ・ 各国でナショナルコミッティー設置等

2027年－実施期間

- ・ 事業実施・ロゴの活用 等

2028年－レガシー期間

（ポスト2030（SDGs）に向けて）

「持続可能で強靱な観光」

- ・ 観光は、経済成長のみならず、
 - ・ 地域社会の活性化
 - ・ 文化・自然資源の保全
 - ・ 社会的包摂
 - ・ 環境保全
 - ・ レジリエンス強化に向けて、
大きな役割を果たすもの

目的

- 持続可能な観光や観光レジリエンスに関する政策実施の支援
- 観光に対する世界的認識の向上
- 2030年以降の観光の役割に関し対話を促進
- 観光セクター全体の能力強化

ロゴを活用した事業実施

- ・ 観光庁ウェブサイトの特設サイトを作成
- ・ 国際年の目的に合致する事業の登録、
ロゴ使用の申請受付（2026年12月目途）
- ・ 周知（観光庁特設サイト等）、事業実施

（例）

- ・ キャパシティビルディング
- ・ 知見共有のための調査・イベント 等



INTERNATIONAL YEAR OF
SUSTAINABLE AND
RESILIENT TOURISM

国際年の目的に合致する活動に使用するロゴ

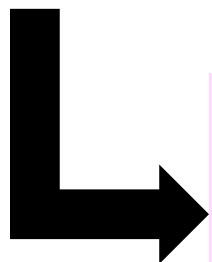
例1：準備期間（観光庁） 「ナショナルコミッティ」

- ・ 国内レベルで取組支援（中核的プラットフォーム）
- ・ 日本は本年9月25日設置（構成：観光庁・賛助加盟員）
（目的・役割）
 1. 国内の活動の準備・実施・フォローアップ
 2. 国際年の目標に沿った行動計画の策定
 3. 持続可能で強靱な観光の推進に関する認識向上
 4. 幅広い関係者の関与の促進・連携強化
 5. 国際年に関連する活動の登録・ロゴ使用の承認
 6. 観光セクターの能力構築支援
 7. UN Tourismに対する活動・成果の提供

例2：準備期間（観光庁/RSOAP※）

「持続可能で強靱な観光国際年2027セミナー」

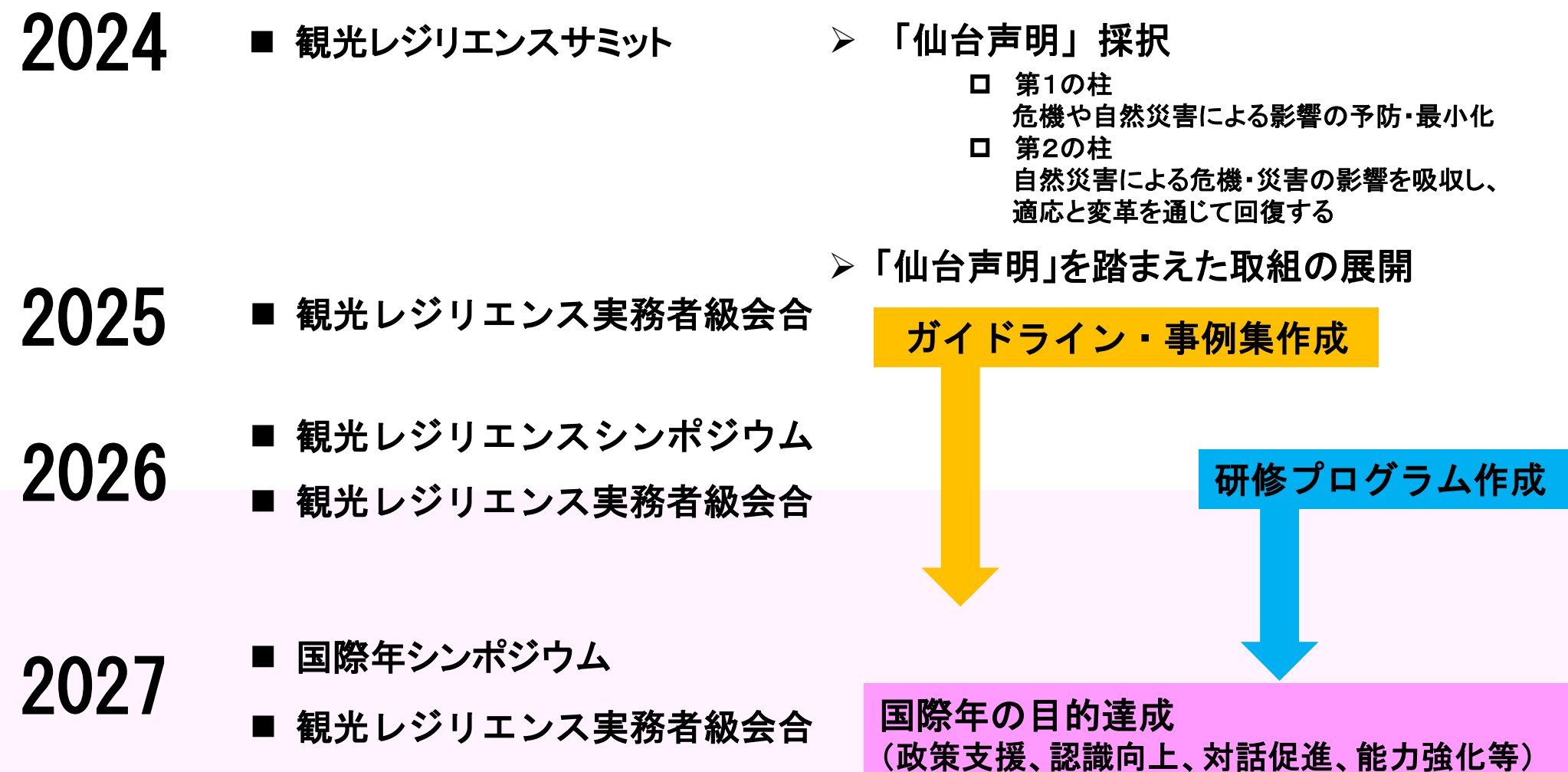
- ・ 2026年9月25日（主催/協力：観光庁/RSOAP）
- ・ 国際年の周知、国内外の取組を関係者と共有
- ・ 関係者間の機運醸成、連携を一層強化



観光庁/RSOAPのリーダーシップで、世界に先駆け
アジア・太平洋地域から、UN Tourismが目指す
グローバルレベルでの持続可能で強靱な観光推進に貢献

※RSOAP：UN Tourism アジア太平洋地域事務所（Regional Support Office for Asia and the Pacific）

例3: 持続可能で強靱な観光の取組 (観光庁/RSOAP) 「観光レジリエンス」



ご清聴ありがとうございました

